

★ ハスモンヨトウ情報（豆類・野菜類・花き類）★

ハスモンヨトウの発生状況

9月中旬に行った巡回調査の結果、**アズキ**と**キャベツ**で**平年比多い発生**を認めました。

●アズキ

寄生株率13.5%（平年3.7%）、25株当たり中・老齢幼虫の寄生虫数 7.1頭（平年1.6頭）、発生ほ場率87.5%（平年36.8%）、10a当たり白変葉か所数 9.3か所（平年0.8か所）で**平年比多い発生**でした。

●黒ダイズ

寄生株率 5.5%（平年 7.9%）、25株当たり中・老齢幼虫の寄生虫数 2.0頭（平年6.0頭）、発生ほ場率62.5%（平年50.6%）、10a当たり白変葉か所数 5.1か所（平年4.6か所）で平年比並の発生でしたが、**白変葉の多い地域**も認められました。

●キャベツ

寄生株率16.7%（平年 1.2%）、10株当たり卵塊数 0.9、幼虫数15.8頭（平年 0.1、0.6頭）、発生ほ場率 100%（平年20.7）で**平年比多い発生**でした。

●フェロモントラップへの誘殺数

フェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数（8月第6半旬から9月第3半旬までの合計値）は京田辺で235.0頭（平年379.9頭）で平年比やや少なく、京丹後で278.0頭（平年267.4頭）で平年並でした。

◎近畿地方の気象の1か月予報によると、**気温は高く、降水量は平年並**と予想されており、**ハスモンヨトウの発生・増殖に好適な条件**が続く見込みです。

防除対策

- 豆類 ・ほ場を見回り、幼虫分散前の白変葉の早期発見・除去に努めてください。
・一度防除した場合でも、成虫が飛来し産卵する場合がありますので、防除後の発生にも十分注意してください。
- 野菜・花き
・施設栽培では、開口部に防虫ネット（4mm目合い以下）を展張し、成虫の飛来・侵入を防止してください。
・ほ場を見回り、卵塊・若齢幼虫の早期発見に努めてください。
- 齢が進んだ幼虫は周囲に分散し、かつ、薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要です。
- 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。